令和５年度　芸術(音楽Ⅰ)　シラバス　　沖縄県立那覇西高等学校

科目名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
音楽Ⅰ	2	１・２年	選択	普通科・国際人文科(1 年) 体育科(2 年)	

１．科目概要および目標

音楽の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）　曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

（2）　自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや，音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

（3）主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

２．成績評価

出席・授業態度・実技テスト・単元テスト・課題の提出を総合的に評価する。

３．教科書及び教材

教科書/「高校生の音楽Ⅰ」教育芸術社

教材/「高校生の歌集つどい」九州高等学校音楽教育研究会、「音楽の鑑賞資料と基礎学習」教育芸術社、「高校生のための新・楽典ワーク」ドレミ楽譜出版、自作プリント。

４．履修上の留意点

●歌唱・器楽・創作・鑑賞の４つの領域を万遍なく取り入れ、各領域で生徒が主体的に活動できるよう配慮する。

●ICT を活用した授業展開を行い、生徒が様々な感覚を関連付けて音楽の理解を深めたり，主体的に学習に取り組んだりすることができるようにする。

●音楽に関する知識的財産権について説明し、他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図る。

令和５年度　芸術(音楽Ⅰ)　年間授業計画　　沖縄県立那覇西高等学校

学期	月	単元	学習内容と方法	領域	その他
1	4	豊かな声を探そう	歌う時の姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方に注意して、音楽表現を工夫して歌唱する。 歌詞の内容を深く捉え、曲想とのかかわりを理解し、曲のもつ雰囲気や味わいを理解して歌唱する。 旋律の特徴や言葉の抑揚を理解して、イメージに合った表現を工夫する。	歌唱	「翼をください」
	5	三線を弾いてみよう	三線の歴史や各部位の名前、構造について理解する。 楽譜の読み方を理解し、曲にふさわしい奏法を創意工夫して演奏する。	器楽	「てぃんさぐぬ花」
		校歌を歌ってみよう	言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。	歌唱	「那覇西高校校歌」
	6	沖縄の音楽を聴き、その特徴を感じ取ろう	日本の民謡や民俗芸能の分類を知り、民謡で用いられる音階やリズム様式を理解した上で、沖縄のさまざまな音楽を鑑賞し、そこで用いられる楽器、衣装、踊りなどの特徴を理解する。	鑑賞	「島唄」 「仲順流り」 「執心鐘入」
	7	日本歌曲を歌おう	鼻濁音やｓ音、ｔ音などの子音に注意し、日本語の美しい発音に留意	歌唱	「この道」

			して歌う。 歌詞の内容を理解し、作曲者のディナーミクの支持をもとに、ふさわしい表現を工夫して歌う。		
	7	音楽って何だろう？	身の回りのさまざまな音楽を聴き、「音楽とは何か」を考え、ジョン・ケージの《4分33秒》やアザーンを例に、様々な音楽のあり方に気づく。	鑑賞	《4分33秒》
2	9	リズムアンサンブルにチャレンジしよう	グループで4つのパートに分かれ様々なリズムパターンを組み合わせて演奏する。 曲の仕組みを理解し、強弱や速さなどを工夫し表現する。	器楽	クラッピングカルテット1番
		イタリア歌曲を歌ってみよう	言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。	歌唱	カーロミオベン
	10	合唱曲を歌おう	クラスで合唱曲を決め、発表に向けて活動に取り組む。 合唱ならではの響きを感じ、歌唱表現を工夫して活動に取り組む。	歌唱	大地讃頌
	11	ギターを弾こう	タブ譜の読み方を理解し、ギターの特質を生かして演奏する。 楽器の構造を知り・基礎的な奏法を身に付ける。	器楽	Happy Birthday To You
	12	交響曲第9番聴き、歌ってみよう	ベートーヴェン作曲交響曲第9番を聴き、曲の構成や込められた思いを理解し、歓喜の歌を歌う。	鑑賞 歌唱	交響曲第9番

3	1	≪きらきら星≫の旋律で音楽を作ろう	グループに分かれ、テーマを決めて≪きらきら星≫の旋律を変奏する。 ICT 機器を用いて曲を作り、完成した作品をグループで発表する。		≪きらきら星≫
	2	音楽に関する知的財産権＝著作権について知ろう	著作権の種類について知り、ケースごとに著作権が許容されるものかを考え、著作者の創造性を尊重する態度を形成する。		
	3	音楽Ｉまとめ クラスコンサートを開こう	音楽Ｉで学んだ歌唱・器楽・創作・鑑賞の資質能力を生かし、グループに分かれ発表を行う （演奏形態は問わない） グループで音楽を作る中で演奏形態に応じた表現を創意工夫する		

令和５年度　芸術シラバス(音楽 II)　　沖縄県立那覇西高等学校

科目名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
音楽 II	2	２・３年	選択	普通科(２・３年) 国際人文科・体育科(３年)	

１．科目概要および目標

音楽の諸活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

（2）個性豊かに音楽表現を創意工夫することや，音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。

（3）主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

２．成績評価

出席・授業態度・実技テスト・単元テスト・課題の提出を総合的に評価する。

※2 年生は知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度の観点別で評価する

３．教科書及び教材

教科書/「高校生の音楽 II」教育芸術社 教材/「高校生の為の音楽研究ノート」教育芸術社

４．履修上の留意点

●各進路に応じて、個別に目標を設定し、達成できるよう活動に取り組む

●単元のまとめとして実技テストおよび発表を行う。

●他者とともに協働して音楽活動を行い、調和を意識して演奏する

◎就職・進学試験等と関連しての注意事項

音楽・保育系専門学校への進学を希望する生徒に対して、授業や放課後等においてピアノの指導や保育検定取得の為の指導を個別に行う。国公立・私立の芸術・音楽大学進学を希望する生徒に対 しては音楽予備校との連携を図りながら個別に指導を行う。実力向上のねらいとともに実績づくりとして各種コンクールへの参加を奨励する。

令和４年度　芸術(音楽 II)　年間授業計画　　沖縄県立那覇西高等学校

学期	月	単元	学習内容と方法	備考	その他
1	4	歌詞に込められた思いを感じ取り、ふさわしい表現を工夫しよう	音楽Ｉで学んだ発声の基本を振り返る。 歌詞に込められているメッセージを正しく理解する 曲にふさわしい歌い方や表現を考える。	歌唱	那覇西高校校歌 糸 見上げてごらん夜の星を
	5 6	三線を弾こう	三線の歴史や各部位の名前、構造について理解する。 音楽Ｉから発展的な曲に取り組み、表現や奏法を創意工夫して演奏する。	器楽	涙そうそう 島人ぬ宝
	7	オペラを鑑賞しよう	オペラ《魔笛》のあらすじやモーツァルトの生きた時代を理解しオペラを鑑賞する。	鑑賞	魔笛
2	9	楽器の表現に親しもう	ギター、リコーダー等を中心とした様々な奏法の実習を行う。 ﾊﾞﾛｯｸ時代から近・現代までの器楽曲の鑑賞をする。 楽器の音色や奏法の特徴を活かした表現の工夫をする。	器楽	Stand By Me(ギター) ロンド(リコーダー)
	10	日本や外国の歌曲を歌おう	日本語とイタリア語の発音の違いについて理解する。 曲にふさわしい歌い方や表現を考える。	歌唱	からたちの花 優雅な月よ
	11 12	世界の諸民族の音楽を鑑賞しよう	セネガル・ハワイ諸島・アンデス地方・フィンランドの民族音楽を鑑賞し、それぞれの背景を理解して音楽表現の違いを感じ取る	鑑賞	
3	1	外国語の歌曲を歌おう	ドイツ語とフランス語の歌曲を歌いそれぞれの言語の発音方法について理解する。 曲にふさわしい歌い方や表現を考える。	歌唱	子守歌 愛の賛歌

	2	BGM を作ろう	朗読・演劇・映像などから BGM をつける対象を選び、どの場面の BGM を作るか決め制作する。 作った BGM を発表し意見交換をする。	創作	
	3	表現を工夫してアンサンブルをしよう	歌や楽器の音色、奏法、それらの組み合わせを活かしたアンサンブル活動を行う。 任意の曲と編成を考え練習し、発表する。		

令和５年度　芸術シラバス　　沖縄県立那覇西高等学校

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
美術Ⅰ	2	1年 2年	選択必修	普通科・国際人文科 体育（2年）	

１．科目概要および目標

多種多様な創造活動を通して、造形的な見方・考え方を鍛え、美的体験を通じて生活の中の美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

（１）対象・事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。

（２）造形の美しさ、表現の意図・創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し構想を練り美術文化に対する見方・感じ方を深めることができるようにする。

（３）主体的に創造活動に取り組み、生涯にわたって美術を愛好する心情を育て、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活・社会を創造する態度を養う。

２．成績評価（評価の三観点）

（１）**「知識・技能」**対象・事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表わしている。

（２）**「思考・判断・表現」**造形の美しさ、表現の意図・創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し構想を練り美術文化に対する見方・感じ方を深めている。

（３）**「主体的に取り組む態度」**主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

３．教材

教材：アクリル絵の具 鉛筆・ペン 画用紙類 石粉粘土 木材 ワイヤー 接着剤など

４．授業の展開と形態

（１）『描きながら考える。考えながら描く』を繰り返すなかで自己を見つめ探求する。

（２）目や耳で感じる＝外の世界と自己の内面を見つめる。

５．学習方法

題材への興味・関心を持たせる手立て。

（１）マインドマップの活用。ロードマップによるプラニング

（２）ディスカッション・発表による思考の深化

６．履修上の留意点

●生徒一人ひとりが互いの美的価値観を認め、尊重し合う態度をもつ。

●美術に関する知的財産権や肖像権について理解し、自己や他者の著作物等を尊重する。

●刃物類、塗料、器具の使用する際には、自己や他者の安全に十分注意する。

●情報を選択し、読み解く力を付ける。

◎就職・進学試験等と関連しての注意事項

美術系私立大学・専門学校への進学を希望する生徒に対して、放課後や夏休み等においてデッサン基礎・着彩基礎の指導を個別に行う。国公立の美術大学進学を希望する生徒に対しては美術予備校との連携を図りながら個別に指導を行う。実力向上のねらいとともに実績づくりとして各種コンクールへの出品を奨励する。

令和５年度　芸術シラバス　　沖縄県立那覇西高等学校

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
書道Ⅰ	２	１・２年	選択必修	普通科・国際人文科 体育科（２年）	

１．科目概要および目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

（２）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

（３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

２．成績評価（評価の三観点）

（１）「知識・技能」

書の表現の方法や形式、書表現の多様性について書の創造的活動を通して理解を深めている。書の伝統に基づき、作品を効果的・創意的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。

（２）「思考・判断・表現」

書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えている。

（３）「主体的に取り組む態度」

主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

３．使用教科書・教材

光村図書　書Ⅰ

４．授業の展開と形態

単元の目標を把握させ、解説や指導を行い、練習から清書書きをする。

５．学習方法

・実技・・・漢字(篆・隷・楷・行・草書体)・仮名・漢字仮名交じり・篆刻・色紙の練習、添削を行い作品内容の向上を図る。

・鑑賞・・・書道展入賞作品や名筆古典書をビデオで鑑賞し、本物の芸術を味わう。鑑賞する事は、自らも豊かになり、書写表現にもその豊かさが表れる。

６．履修上の留意点

・教材（墨、紙〈半紙・半切〉、材木、色紙）は、学校で一括購入をする。
その際、教材費は、新学期に納入させる。

・用具（硯、下敷き、文鎮、墨池、のみ、木槌）は、書道教室の物を使用する。

◎就職・進学試験等と関連しての注意事項

・毛筆・硬筆書写検定（文部科学省後援）３級以上の合格を目指す。

・実力向上のねらいとともに実績づくりとして各種コンクールへの出品を奨励する。

令和５年度　芸術シラバス　　沖縄県立那覇西高等学校

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
書道Ⅱ	２	２・３年	選択	普通科 国際人文科・体育科	

１．科目概要および目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

（２）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

（３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

２．成績評価（評価の三観点）

（１）「知識・技能」

書の表現の方法や形式、書表現の多様性について書の創造的活動を通して理解を深めている。書の伝統に基づき、作品を効果的・創意的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。

（２）「思考・判断・表現」

書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えている。

（３）「主体的に取り組む態度」

主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

３．使用教科書・教材

光村図書　書Ⅱ

４．授業の展開と形態

単元の目標を把握させ、解説や指導を行い、練習から清書書きをする。

５．学習方法

・実技・・・漢字(篆・隷・楷・行・草書体)・仮名・漢字仮名交じり・刻字・色紙の練習、添削を行い作品内容の向上を図る。

・鑑賞・・・書道展入賞作品や名筆古典書をビデオで鑑賞し、本物の芸術を味わう。鑑賞する事は、自らも豊かになり、書写表現にもその豊かさが表れる。

６．履修上の留意点

・教材（墨、紙〈半紙・半切〉、木材、色紙）は、学校で一括購入をする。
その際、教材費は、新学期に納入する。

・用具（硯、下敷き、文鎮、墨池、のみ、木槌）は、書道教室の物を使用する。

◎就職・進学試験等と関連しての注意事項

・毛筆・硬筆書写検定（文部科学省後援）３級以上の合格を目指す。

・実力向上のねらいとともに実績づくりとして各種コンクールへの出品を奨励する。

令和５年度　芸術シラバス　　沖縄県立那覇西高等学校

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
美術Ⅱ	２	２・3年	選択	普通科　体育科 国際人文科	

１．科目概要および目標

美術Ｉで培った力のさらなる向上・進化を図る。造形的な見方・考え方を鍛え、美的体験を通じて生活の中の美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

（１）対象・事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表す。

（２）造形の美しさ、表現の意図・創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し構想を練り美術文化に対する見方・感じ方を深める。

（３）主体的に創造活動に取り組み、生涯にわたって美術を愛好する心情を育て、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活・社会を創造する態度を養う。

２．成績評価（評価の三観点）

（１）**「知識・技能」**対象・事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表わしている。

（２）**「思考・判断・表現」**造形の美しさ、表現の意図・創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し構想を練り美術文化に対する見方・感じ方を深めている。

（３）**「主体的に取り組む態度」**主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

３．教材

教材：アクリル絵の具 鉛筆・ペン 画用紙類 石粉粘土 木材 ワイヤー 接着剤など

４．授業の展開と形態

（１）『創造しつつ考える。考えつつ創造する』を繰り返す中で自己を見つめ探求する。

（２）目・耳・皮膚で感じながら、外の世界と自己の内面を見つめる。

５．学習方法

題材への興味・関心を持たせる手立て。

（１）マインドマップの活用。ロードマップによるプラニング

（２）ディスカッション・発表による思考の深化

６．履修上の留意点

●生徒一人ひとりが互いの美的価値観を認め、尊重し合う態度をもつ。

●美術に関する知的財産権や肖像権について理解し、自己や他者の著作物等を尊重する。

●刃物類、塗料、器具の使用する際には、自己や他者の安全に十分注意する。

●情報を選択し、読み解く力を付ける。

◎就職・進学試験等と関連しての注意事項

美術系私立大学・専門学校への進学を希望する生徒に対して、放課後や夏休み等においてデッサン基礎・着彩基礎の指導を個別に行う。国公立の美術大学進学を希望する生徒に対しては美術予備校との連携を図りながら個別に指導を行う。実力向上のねらいとともに実績づくりとして各種コンクールへの出品を奨励する。

令和５年度　芸術シラバス　　沖縄県立那覇西高等学校

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
芸術総合	２	３年	選択	普通科	

１．科目概要および目標

芸術を総合的に学習するため、授業を前期・後期に分け、音楽・美術の授業を行う。芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたって芸術に親しむ心を育てるとともに、芸術文化についての理解を深め、感性と豊かな情操を養う。

音楽・・・音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を養い、音楽文化の理解を深める。

美術・・・音楽の授業を通して感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、平面または立体で表現する。また表現技法の学習や作品鑑賞を行い、創造活動への興味・関心を高める。

２．成績評価

実技や作品などで２科目の平均的な評価をする。

音楽

・表現活動を通して、創造的な表現を主体的に行う態度を評価する。

・鑑賞活動を通して、具体的なイメージを表現する能力を評価する。

美術

・評価の三つの視点

① クリエイティブな発想②ハイクオリティーへの追求③制作のプロセスのプログラミングの三点から評価する。

・授業態度／授業への興味・関心作品制作に対する主体性・独創性などを考慮する。

３．教材

音楽／歌集、楽譜、五線紙

美術／アクリル絵の具　鉛筆・ペン　画用紙類　石粉粘土　接着剤など

４．授業の展開と形態

授業を前期・後期に分け、音楽・美術の授業を行う。

音楽においては、表現活動・鑑賞活動を行い、具体的なイメージを持つことが出来るよう作品研究を行う。

美術においては、評価の三視点を基本に・アクティブ・ラーニングの手法・マインドマップの活用などを行う。相互の作品鑑賞と評価を行いコミュケーション能力の向上に努める。